

◆**単元名**：第3章 中世の日本と世界

2 ゆれ動く武家政治と社会 「⑪下剋上の世へ」(教科書 pp.78-79)

◆**本時の目標**：

史料(徳政碑文)の内容を読み解き、考える活動を通して、一揆が発生した背景には徳政・自治を求める民衆の団結があったことに気づく。

一揆や戦国大名の台頭などを通して、この時代における下剋上の広まりを理解する。

《本時の展開例》

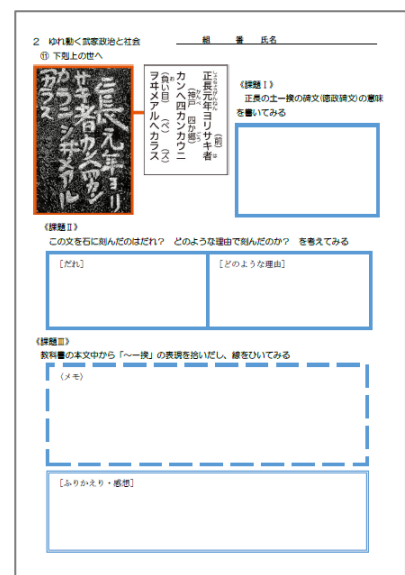
	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (5分)	●前時の復習を行う。	・惣や町衆などの形成について再確認し、自治・団結の素地が形づくられてきていることを意識させる。	・必要に応じて、デジタル教科書〈p.76・動画「室町時代のころの田植えの様子」〉を再生。 ・プロジェクトを使用。
展開 (35分)	●徳政碑文を読み解く。 【問】碑文の内容を読み取ってみよう。 【問】だれが何のために碑文を刻んだのかを考えてみよう。 ●ペアごとに発表させる。 ●徳政碑文について総括する。	・ワークシートに記入させる。 ・二人一組(ペアワーク)にして、協力しながら内容を読み取ったり考えたりさせていく。 ・複数のペアに、読み取った内容や、碑文を刻んだ理由などを聞く。 ・碑文は一揆の成果を後世に残すために民衆(農民たち)が刻んだものだということを共有する。	・デジタル教科書収録の徳政碑文(p.78・1)を拡大し、投影。 ・プロジェクトを使用。  ・ペンツールを使用し、投影している碑文に現代語訳を書き加えるなどして、理解の手助けをする。 ・プロジェクト、電子黒板を使用。
まとめ (10分)	●ワークシートにまとめさせる。 ●本時のふりかえりをさせる。	・一揆は、幕府や朝廷などが起こしたのではなく、民衆などが団結して起こしたものだことを確認する。 ・こうした下剋上の風潮が広まり、戦国時代へとつながっていくことを理解する。	・プレゼンテーションソフトなどで作成したまとめを提示する。 ・プロジェクト、電子黒板を使用。

◆指導にあたって：

- 本時では、農民が起こした初めての一揆とされる正長の土一揆に焦点を当て、下剋上の風潮が社会に広まっていく状況を概観する。人類の誕生から学習を進めてきた生徒からすると、このような日本国内における情勢は初見であろう。生徒には、ペアワークで史料の読み取りなどを行いながら、当時の状況を追体験し、この時代に見られた変化をつかみ取ってほしいと考えた。
- デジタル教科書の本文や図版、動画などは、大画面に投影でき、かつ拡大や縮小が自在である。そのため、生徒に図版などを提示したり、内容を共有したりする際に非常に有効であると考えた。本時では、デジタル教科書収録の図版を画面に投影しながら生徒の考えを引き出したり、解説を加えたりすることができた。

◆デジタル教科書活用のねらい：

- 課題提示において、デジタル教科書収録の「石に刻まれた正長の土一揆の碑文」(p.78・1)を提示しながら、本時の課題に対して生徒の興味や関心を高めるようにする。



▲ 実際の授業の様子(左・中)と、授業で使用したワークシート(右)

◆生徒の反応：

- グループワークを実施することが多いため、本時のようなペアワークは生徒たちにとって新鮮だったようである。協力してワークシートにある課題に取り組んでいたのが印象的だった。また、画面に当該史料を投影しておいたことで、ペア相互の情報交換もさかんだった。

生徒の声

- ・ 普段の生活の中でも聞く下剋上という言葉だが、まさにこの時代に合う単語だと思う。下の人が上の人に向かって反抗するのは、すごい勇気だと思う。
- ・ 徳政への喜びを表したくなる気持ちはわかる気がする。幕府や戦国大名が(碑文を)刻んだかと思ったが、農民とわかって驚いた。

◆授業を終えての感想・今後の課題：

- ペアワークでの活動は効果的だった。本時のような活動を行う場合、少人数グループのほうが、生徒各人が課題に対する責任を負うこともあり、(当然のことかもしれないが)しっかりと取り組めるようだ。
- 本時におけるデジタル教科書の利用は資料提示のみにとどまったが、デジタル教科書内には動画やアニメーションつき図版などもあるため、それらを効果的に利用できるよう授業展開を考えていきたい。